



「松江養護学校」という学校

島根県立松江養護学校 校長 佐藤 真司



どじょうのつかみどり

以前かわつの子どもたちからこんな話を聞いたことがあります。『松江養護学校つて門から入ったことがない』『どんな学校か知らない』。もちろん川津小学校や松江二中との交流学習で行き来があつた子どもたちは、少しイメージをもつてもらえていたと思つていますが、大半のかわつの子どもたちや地域の人たちは、どんな学校かよくわからないと思います。

三年前から「#もつと！まつよう」を合言葉に、地域との協働に力を入れ、地域の中で、地域について、地域のために、地域

と共に学習を進めています。教員もかわつの子どもたちの声を聞いてから、このままではいけない、松江養護学校をもつと知つてもらわなければ、うちの子どもたちが忘れて去られてしまう・などと危機感を持つています。

川津公民館の活動では、三宅館長さんにたいへんお世話になつております、快く子どもたちの活動を後押ししてもらっています。今年初めて「一緒に○○しましょう大作戦」では、地域の人、幼稚園生、二中生と一緒に、お掃除棒を作つたり、折り紙をして、ふうせんかずらの種を袋詰めしたりする活動をしました。また毎週トイレ掃除にも取り組みました。エコキヤップや牛乳パックの回収にもご協力いただきました。さをり織り教室も開催しました。あれもこれも地域の人と一緒に取り組み、川津公民館は、第二の校舎となっています。

また、今まで一番に近くにある松江刑務所となかなかコラボすることが少なかつたですが、今年から本校のさをり織りを受刑者の方に製品化していただき、くにびきメッセでの矯正展に出品していただきました。新聞にも取り上げてもらい、生徒も保護者もたいへん喜んでいました。そしていよいよ寄宿舎が動き出しまし

た。寄宿舎には高等部生二十六名が生活しています。寄宿舎生も何とか地域に存在を知つてもらいたいと、四季ヶ丘に久しくなくなつて夏祭りを復活させました。かわつ地区の子どもたち四十人ぐらいが寄宿舎に来てくれました。いろいろなゲームコーナーやたこ焼き、かき氷、ジュースといった飲食コーナーもにぎわいました。特にどじょうのつかみ取りは、大人気で何匹もつかまる子どもや恐る恐るどじょうに手を伸ばす子どももいて、あげくの果てには生け簀で泳ぎだす子どももいました。冬にはドミナリエと称したクリスマス会に十人近くの子どもたちが来てくれました。歌やクイズで楽しみ、プレゼントをもらって喜んでもらえたようです。寄宿舎生も変わつてきました。最初は集団が苦手な寄宿舎生も、子どもたちの様子から元気をもらい、積極的に話し合いや準備に参加する姿が見られるようになりました。こういったWin-Winの関係が地域との協働に欠かせないといつも思っています。

これからも地域といろいろな形で関りをもしながら、松江養護学校という学校を地域の中ではなくてはならない学校にしていくのが私の夢です。

本号では人権教育特集号として川津地区内の各校で行われている人権教育の取り組みを紹介します。公民館でも川津地域人権・同和教育推進協議会が中心となり、人権課題の解決に向けて活動しています。



島根県立松江養護学校

校訓

「明るく」「強く」「なかよく」

学校教育目標

「自立と社会参加を目指し、実社会、実生活の中で汎用性の高い力を培うとともに、自分や他人を大切にしながら、地域の中で力強く生き抜いていこうとする態度を育む」

令和5年度の具体的な取組

松江養護学校では、「地域との協働・交流の中で、主体的に地域とかかわり、自己や地域の課題と向き合う意欲や態度」の育成を目指しています。地域の「ひと・もの・こと」を活用しながら様々な学習活動に取り組む中で、年間を通して人権教育推進を目指しています。今回は、高等部の作業学習での取組を紹介します。

地域との連携・協働を通した理解啓発活動

松江養護学校高等部は、松江しんじ湖温泉「なにわ一水」様と協働し、島根を訪れるお客様に、島根の魅力を発信しました。本校の生徒が作った製品を積極的に使っていただくことで、障がいに対する理解啓発にもつながっています。

園芸班

ゆずのエッセンシャルオイル

島根県産有機栽培ゆず100%使用



地域の課題解決にも貢献

- ・ゆず園の人手不足解消
- ・果汁を絞った後の廃棄する皮を使用



草取りや収穫と一緒にを行う

島根県産の安心安全な物を使いたい



島根県産の精油を使った特別メニュー



国内外からのお客様に喜んでいただいている



松江養護学校



部屋のテーマカラーに合わせたものが欲しい

織工芸班

さわり織りでテーブルランナーの製作



さわり織りの特長を活かし製作

- ・色の組み合わせが自由にできる
- ・大きさが自由に設定できる



小泉八雲が表現した宍道湖の色がテーマのお部屋。13部屋すべてが違う色



人権教育の取り組み

松江市立川津幼稚園

一人一人が自分らしさを發揮し、心豊かに生き生きと生活する幼児の育成
～身近な自然や人との関りを通して、
心育てをするための支援のあり方を探る～

今年度の取り組みのキーワードとしたことは“園庭環境づくり”“園外保育”“人との関わり（地域・異年齢交流）”です。その取り組みの一部を紹介します。

わくわくがいっぱい!! にこにこ広場



子どもが心を弾ませ遊ぶことができるよう、園庭を「にこにこ広場」と名付け、育つ子どもの姿から「にこにこ広場マップ」を考え、環境をつくりました。



草取りをしてきれいにしよう



タイヤを使って花壇作り



のこった！のこった！

川津っていいな！



地域のよさを感じてほしいと願い、園外保育に積極的に出かけました。



朝駒川をおさんぽ



朝駒川を作ろう！

園外保育の経験が遊びにつながりました。「川は深いんじゃない?」「もっと深く掘ろう」「長くつなげよう」と友達と遊びを継続し、試しながら遊びました。

いろいろなところに行ってみたいという思いから、公民館に行って川津ふるさとマップをいただき、家庭に配布したり園に掲示したり行先に印をつけたりしました。「川津っていいね」という思いを感じ、その思いを造形表現にもつなげました。

地域の皆さん、ありがとう～地域の方の温かさを感じて～



公民館にごあいさつ



いも苗植え



嵩山に登って嵩山のおはなしをきいたよ



しめ縄作って、小学校に届けよう

1月29日には、川津人権交流研修会を行い、保育公開・取り組み発表を地域の方に見ていただき、温かい言葉をいただきました。これからも地域の方の力を借りしながら、本園の取り組みを進めていきたいと思います。

松江市立川津小学校

人権教育の取り組み

学校教育目標

ふるさとや仲間とのあたたかいつながりの中で、自ら考え、最後までやりぬく川津っ子の育成

人権教育目標

人間の尊厳を自覚し、いじめや差別をなくす強い意志と連帯して問題を解決していくことする実践力のある子どもを育てる。

令和5年度の具体的な取組より

☆紫雲丸学習の取組

(1)ねらい

- 紫雲丸の日の取組や紫雲丸事故についての学びを通して、いのちの大切さについて考える。(全学年)
- 紫雲丸事故について課題意識をもって調べたり体験したりする活動を通して、「記念碑」に込められた願いやいのちの大切さについての考えを深め、自分たちの手で語り継いでいくとする気持ちをもつ。(高学年)

(2)主な取組

①「紫雲丸の日」

毎月「紫雲丸の日」を命日または月命日に近い日に設定し、記念碑の周りをきれいにしたり、記念碑へのお参りや献花をしたりしています。今年度は異学年のペア学級を組み、交代で記念碑周りの環境整備を行い、ペアの中の上学生が下学年に紫雲丸事故について伝える活動もできました。紫雲丸の日には、「紫雲丸の歌」を朝の会で歌ったり、昼の放送で流したりしています。



<記念碑へのお参り>

②「生存者の方のお話を聞く会」

5月11日の命日に、今年度は、5、6年生が生存者の方からお話を聞き、事故当時の様子や命の大切さなどについて学習しました。



<生存者の方のお話を聞く会>

③「ういてまで講習」

7月18日に、6年生がプールで着衣水泳をしました。救命胴衣の着用についても学習しました。



<ういてまで講習>

子どもたちの感想より

(紫雲丸の生存者の方のお話を聞く会)

- 紫雲丸のお話を聞いて、とても大変な事故だったんだなと思いました。友達や先生が亡くなったり、保ご者の方も亡くなったりしたと考えたら、とても悲しいと改めて思いました。だからこそ命を大切にしたいし、友達も家族も先生も自分も大切にしたいなと思いました。これから命を大切に、生きていることに感謝していきたいです。

(ういてまで講習)

- 海でおぼれた時に助ける方法や助かる方法を学びました。最初はペットボトルで浮けなかつたけれど、だんだん慣れてきて最後は浮けるようになりました。人がおぼれいたら、浮くものをあげるだけで、助けに行ったらダメということを知りました。これから今日学んだことを忘れずに、海や川に行った時に生かしていきたいです。

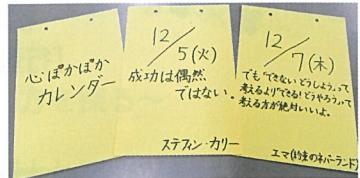
松江市立第二中学校



「心ぽかぽかプロジェクト」の取組

生徒会メンバーが学校生活で起こりうる気になる場面などをオリジナル台本にし、動画にした人権劇を各クラスで視聴しました。そこで問い合わせに、各班で意見交換をしました。その後、生徒会作成の人権カードゲームをしました。班のみんなで協力し、お互いに楽しく活動することができました。カードゲームはカードの指示により、お互いに温かい言葉掛けをしました。

また、生徒会自作の日めくりカレンダー「心ぽかぽかカレンダー」を紹介し、人権週間の間、教室に掲示しました。カレンダーには大切にしたい言葉が選んであり、生徒も関心を持って見ていました。



授業実践と啓発

- 朝読書の時間に人権に関する絵本の読み聞かせを行いました。1回目は校長による「ひとりひとりのやさしさ」の読み聞かせをリモート配信で行い、その後は各クラスで担任と副担任で読み聞かせを行いました。
- 各学年部でテーマや教材を選択して、人権に関する授業を実施しました。予定していた公開授業は悪天候のため昨年度に続き中止となりましたが、校区の小学校などから授業を見に来ていただきました。授業は、各学年のテーマを設定し、社会科、学活、道徳と系統立てた授業を計画し実施しました。
- L G B T理解啓発講師の佐藤みどりさんを講師にお招きし、「自分らしさって何だろう？」の演題で講演会を行いました。こちらも悪天候のため急遽保護者の参加を中止し、生徒と教職員対象に変更して実施しました。1、2年生は体育館で直接、3年生は各教室でリモートで視聴しました。ご自身の体験をお話しされる中、生徒同士の意見交換の場面もあり、様々な考え方を共有することができました。



生徒の感想より (講演会)

- 「みんな違ってどうでもいい」という言葉を聞いて、「それぞれの普通」を大切にしようと思いました。「自分の普通」を押しつけずに、「違いを楽しもう」という言葉が心に響きました。
- 「L G B Tの理解を深める」という話題はよく聞くけど、「理解を深める」のではなく「当たり前にする」ことが大切だと思います。「生きているだけで価値がある」を心に留めたいです。
- L G B Tの人は私たちの身近にも11人に1人の割合でいるということが分かりました。身近にあまりいないと思っていたけど、いないんじゃなくて言えなくて苦しんでいるかもしれないということをあらためて知りました。
- 周りと意見が違つたりすると、自分を責めたり周りの意見に合わせてしまうので、少しでも自分のことを認めたりほめたりできるように意識しようと思いました。

人権教育の
取り組み

島根県立松江東高等学校

松江東高校の人権学習の取組を「人権課題を学ぶ」「生徒の今を把握する」「行動する」の三点から紹介します。

「学ぶ」

「ハンセン病」(1年次)「同和問題」(2・3年次)の二つの人権課題を取り上げ、それぞれの課題に特有の問題点を押さえるとともに、二つの課題を通して多くの人権問題に見られる共通点と、自分たちがどう行動すればよいのかを学びます。

1 交流のなさが偏見を強めること

→交流し正しく知ろう。

2 偏見が生活全般に負の影響を生み出すこと

→言動の影響力に敏感になろう。



同和問題学習 付き合わない意識が、就職差別などを生み出していることを学びます。

「把握する」

将来に向かって学習を進めていくためには、日々の心身の安定が重要です。東高校では、生徒の今の心身の状態を把握するため、月一回「生活アンケート」を行っています。

「夜はぐっすり眠れていますか」「授業に集中していますか」など16項目に答えてもらい、日々の声掛けや、面談に生かしています。

【生活アンケート】

最近一ヶ月の自分についてチェックしてみましょう（あてはまるものに○を）
R 番 氏名

① 3食しっかり食べていますか	食べている	食べるときもある
② 夜はぐっすり眠れていますか	よく眠れている	眠れないこともある
③ 気になる体調の変化はありませんか	気になるところはない	以前はあったが最近はない
④ 体の疲れを感じますか	感じない	感じることがある
⑤ いつもきちんとした身だしなみができますか	いつもしている	時々していない
⑥ 授業に集中していますか		

学年ごとにとりまとめ、情報交換を行います。



「行動する」

人権教育の成果は、様々な人と関わる行動の中で発揮されます。生徒会はいじめをなくすことを目的として世界120か国で行われている「ピンクシャツデー」の取組や、「能登半島地震で被災された方への募金活動」など、自分たちでできることを考え、行動しています。



1月17・18日に実施した募金活動



2月28日に実施した
ピンクシャツデーの取組



人権教育の取り組み



大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科（松江キャンパス）

大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科（松江キャンパス）では、保育士資格・幼稚園教諭免許状の取得にかかり、障がい児保育・特別支援教育の授業を開講しています。講義の他に、福祉施設・学校見学を含む演習や、保育実習・幼稚園実習で実践的な学びを深めています。

令和5年度は、障がいのある方をゲストスピーカーにお招きして講演会を開催し、障がい者の生活の様子や困りごとを知り、盲導犬ユーザーや車いすユーザーへの支援の方法を学ぶ機会を設けました。

保育や教育に関する知識や技能はもとより、そうした人々に声をかけて手を差し伸べるという行動力を身につけることもねらいのひとつです。意識して行動することで初めて「支援」が達成でき、その支援の積み重ねが共生社会の醸成へつながっていくと考えられます。



車いすユーザー講話



車いす体験

学生の感想

- 困っていそうだなと思いながらも、どのように接したり話しかけたりして良いかわからず見て見ぬふりをしていました。困っている姿を目についたら積極的に手を貸すということが大切なのだとわかりました。
- お節介と言われたり思われるかもしれないが、声をかけて力になりたいと思いました。



盲導犬による階段の昇り降り

大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科 (松江キャンパス) の紹介

平成30(2018)年開設の本学科の前身は、平成9(1997)年開校の広瀬町立島根総合福祉専門学校です。「地域と共に育つ」として、福祉・教育の専門職養成教育を通して、学生が自己実現を図りながら、地域社会へ参加する力を獲得することを教育理念に掲げています。それは、人を大切にする福祉・教育が、地域の生活文化に根付くことを願っているからです。

本学科では、親子（乳幼児）を対象としたイベントを開催しています。地域の方々に訪れていただき、大阪健康福祉短期大学を身近に感じていただければ幸いです。令和6年度も学生と川津公民館の活動に参加する予定です。

これからも川津地区の短期大学として、どうぞよろしくお願ひいたします。



地域人同協の活動紹介

川津地域人権・同和教育推進協議会では、同和問題をはじめ、様々な人権課題への理解と認識を深めるため、川津地区や他地区の皆さんと一緒に研修会などを通して学びを深めています。

多くの方と関わることで、それぞれの人権感覚はさらに磨かれていくます。これからも、たくさんの方に私たちの取り組みについて関心を持ってもらえるよう、活動を展開し、皆さんと一緒に人権の輪を広げていきたいと思っています。

7/9 地区研修会

演題：「性は十人十色～知ることからはじめよう～」

講師：島根県人権啓発推進センター

啓発指導講師 北尾 浩之さん

性のあり方は本当に多様であること、また、当事者の生きづらさを周囲が理解し受け止め、寄り添ってあげることの大切さを学びました。まずは私たちがアライ（理解者・支援者）になれるよう、できることから行動していきたいと思います。



無意識の偏見や思い込みはありませんか

3/3 菅田会館・川津地区合同研修会

演題：「みんなが自分らしく生きる未来へ」

講師：LGBT講師・コーチ 佐藤 みどりさん

“みんなが自分らしく生きる未来”というゴールに向かって、何よりも大切なことは「自分を大切にしてあげること」。そうすることで、周りひとのことも大切に思え、みんなで幸せになることができます。

佐藤さんのお話にあった「みんな違ってどうでもいい」という言葉は、決して投げやりな言葉ではなく、“自分の普通を押し付けず、違いを楽しもう！”というプラスの想いが込められており、とても印象に残りました。



みんな違ってどうでもいい



自分を思いやるセルフハグ

3/4 朝酌・川津地区交流視察研修会

内容：被爆体験講話、広島平和公園・平和記念資料館見学

被爆体験証言者さんからお話しをいただいた、当たり前の日常・大切なひとを一瞬にして奪った原爆による凄惨な体験講話。また、平和記念資料館の戦争記録品の数々に、この場所に来なくては感じることのできない、生きたこえを聞くことができました。

原爆の恐ろしさ、またいのち・平和の尊さを改めて実感する研修になりました。



被爆体験講話



原爆投下を再現するホワイトパノラマ

*その他、市・県主催の研修会や地域内教育機関の公開授業等にも参加しました